

2022年3月期 第3四半期 決算の概要

2022年2月17日

株式会社今仙電機製作所

東証 1 部・名証 1 部 証券コード：7266

I . 2022年3月期 第3四半期決算概要

II . 事業トピックス

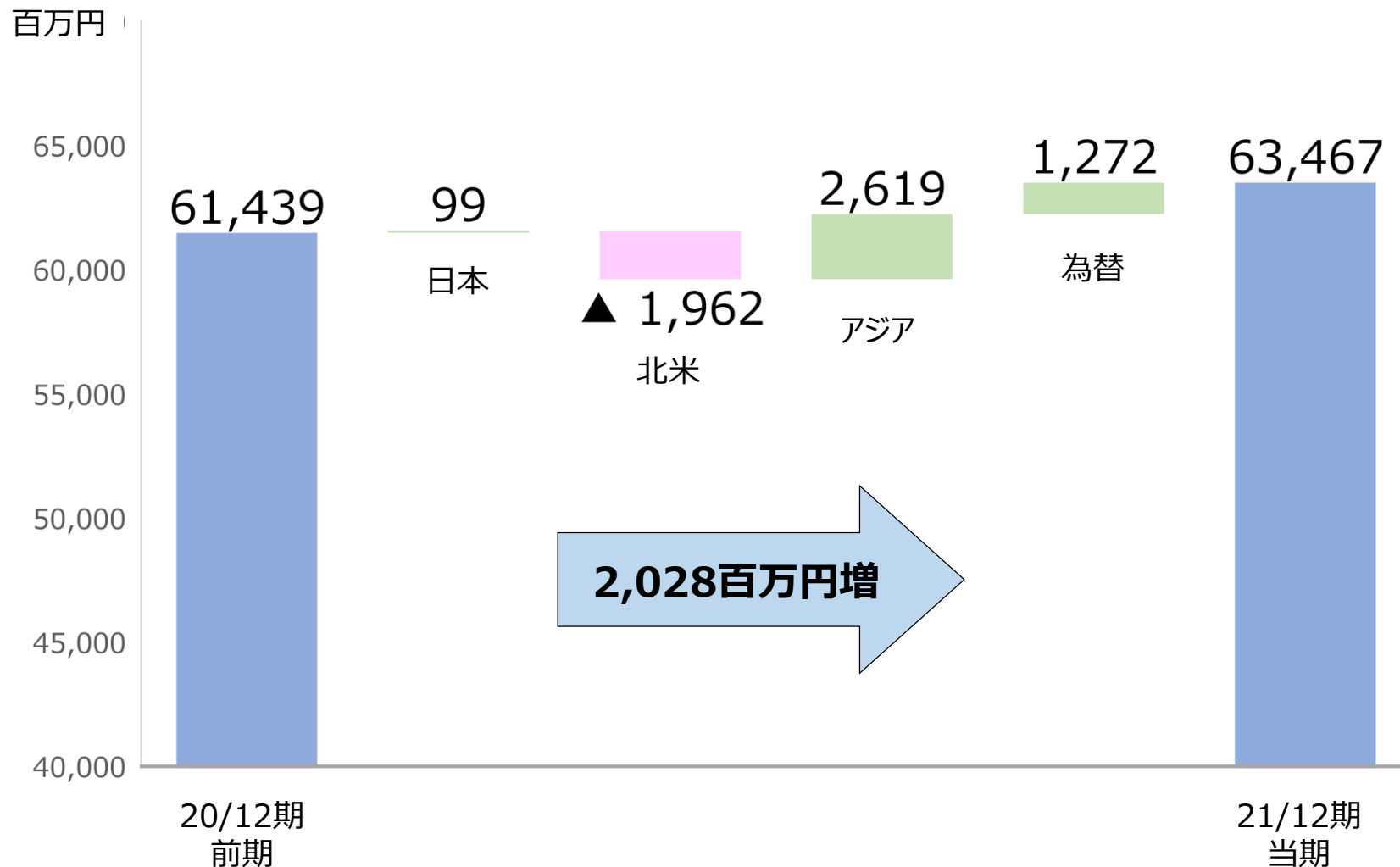
I . 2022年3月期 第3四半期決算概要

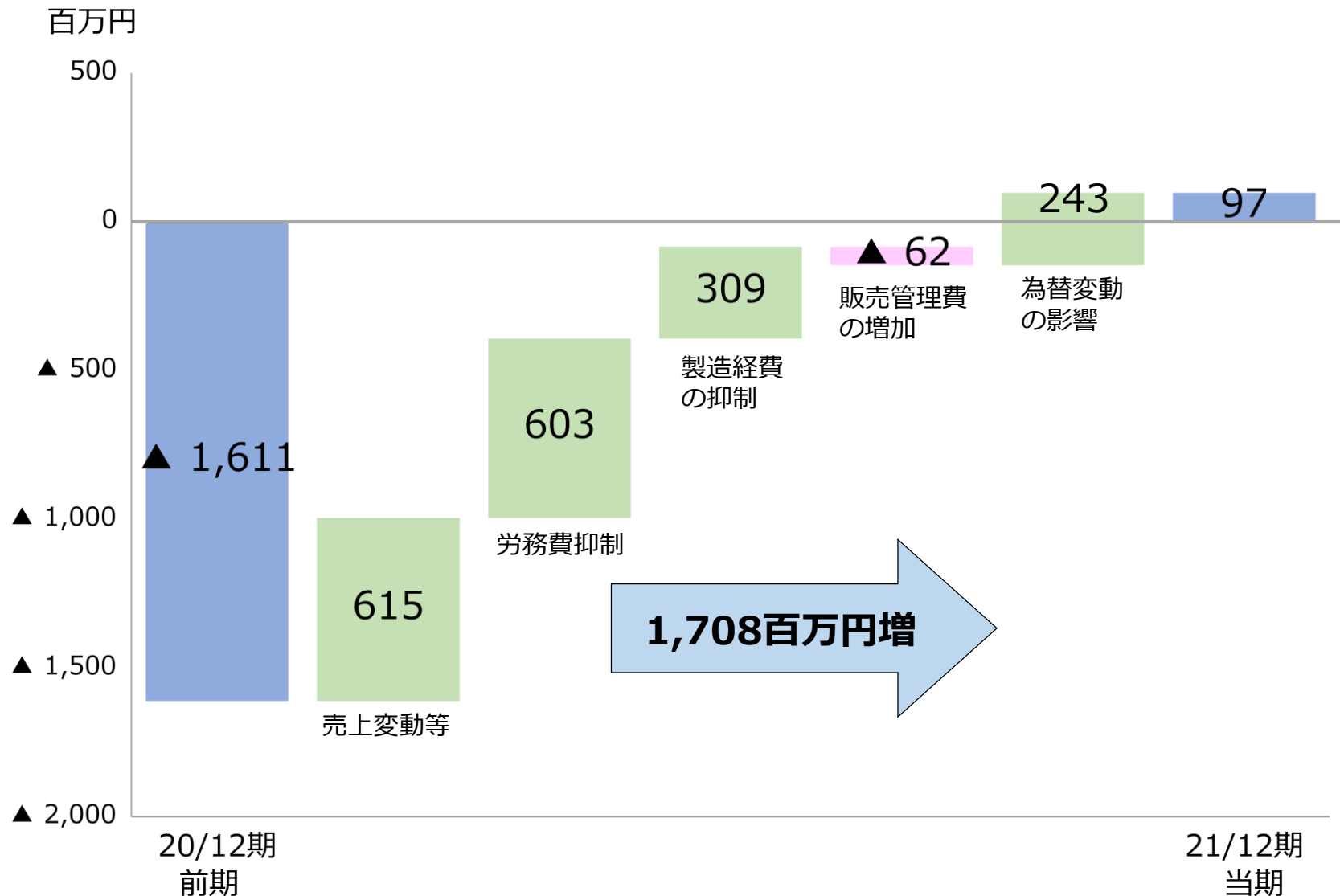
II . 事業トピックス

単位：百万円	前期 (20/12期)	当期 (21/12期)	増減額	増減率
売上高	61,439	63,467	2,028	3.3%
営業利益	▲ 1,611	97	1,708	—
経常利益	▲ 1,497	570	2,067	—
当期純利益	▲ 2,340	▲ 274	2,066	—

為替

USD : 20/12期	107.55円	→	21/12期	108.58円
CNY : 20/12期	15.37円	→	21/12期	16.79円
THB : 20/12期	3.41円	→	21/12期	3.45円



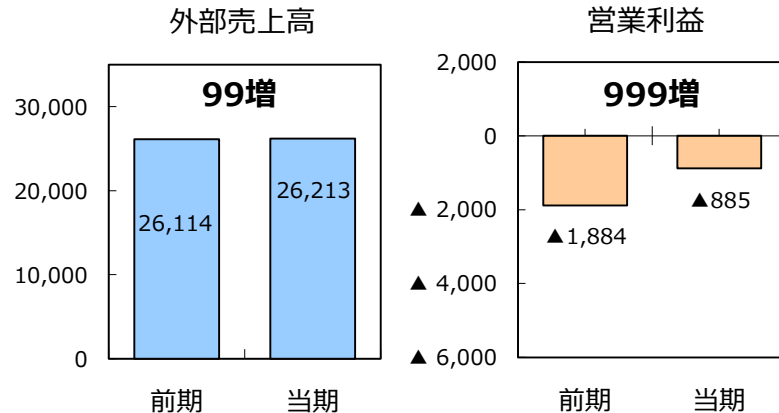


2022年3月期 第3四半期 セグメント別実績

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

国内



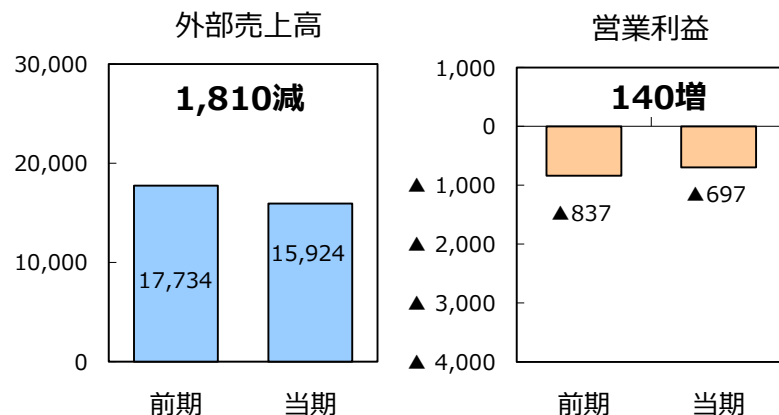
<売上高>

自動車事業において半導体影響があるものの、生産は増加したことにより、ほぼ横ばいとなりました

<営業利益>

第2四半期に引き続き、原価改善および固定費抑制を進めたことで営業損失は縮小しました

北米



<売上高>

半導体影響により、前期に対して生産減少となりました

<営業利益>

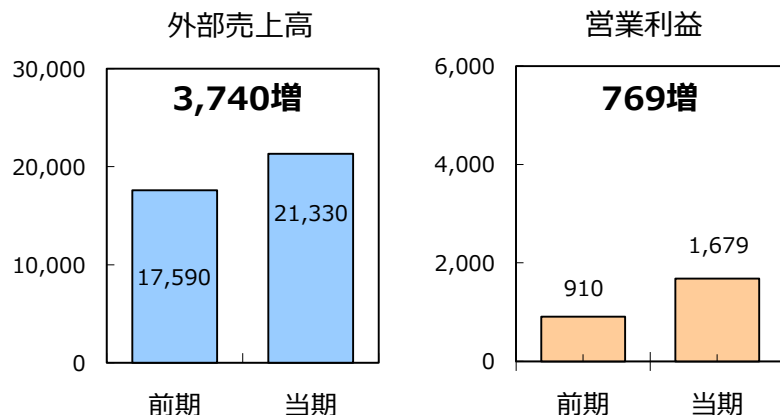
第2四半期に引き続き、原価改善を進めたことで営業損失は縮小しました

2022年3月期 第3四半期 セグメント別実績

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



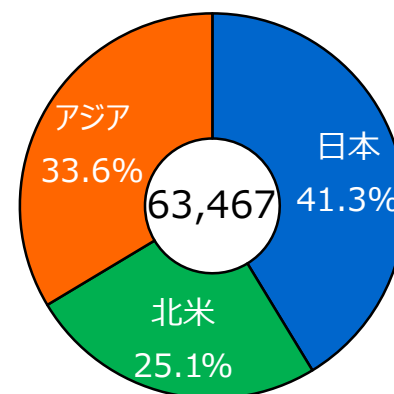
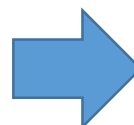
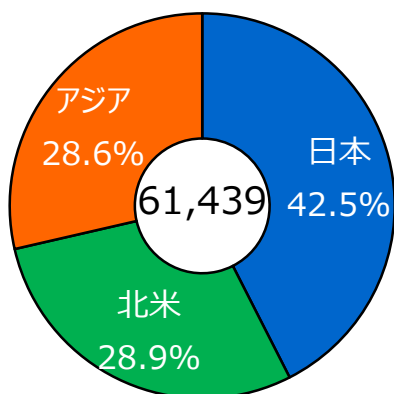
<売上高>

タイ・中国をはじめとしていずれの拠点も生産が回復したことから増収となりました

<営業利益>

増収効果および原価改善により増益となりました

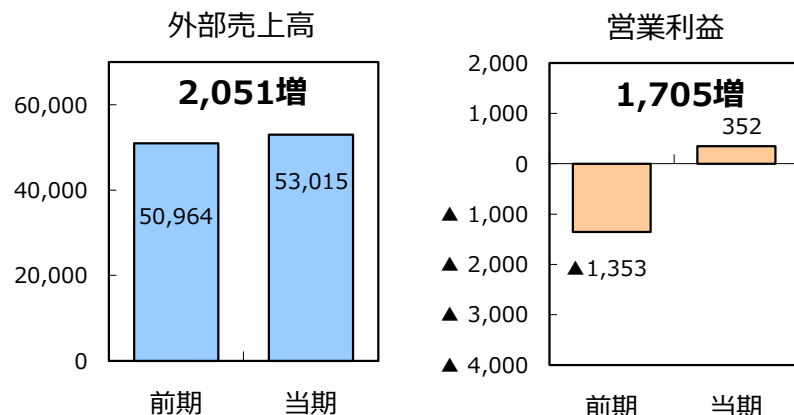
事業の地域別 売上高構成



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



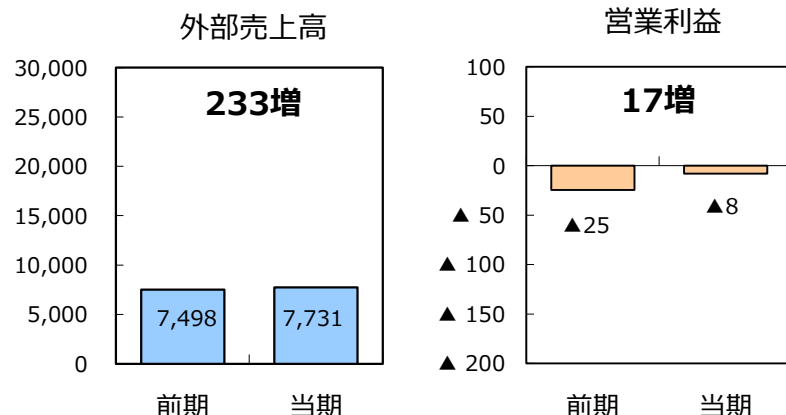
<売上高>

中国・タイにおいて生産が回復したことから増収となりました

<営業利益>

第2四半期に引き続き改善を進めたことで利益は回復しています

電子事業



<売上高>

国内生産の増加により増収となりました

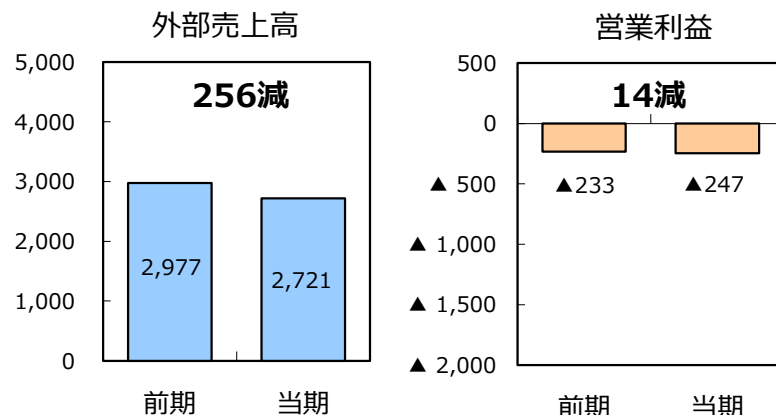
<営業利益>

購入部品の高騰影響や将来に向けた開発費負担があるなか、原価低減を進め営業損失は縮小しました

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

新事業



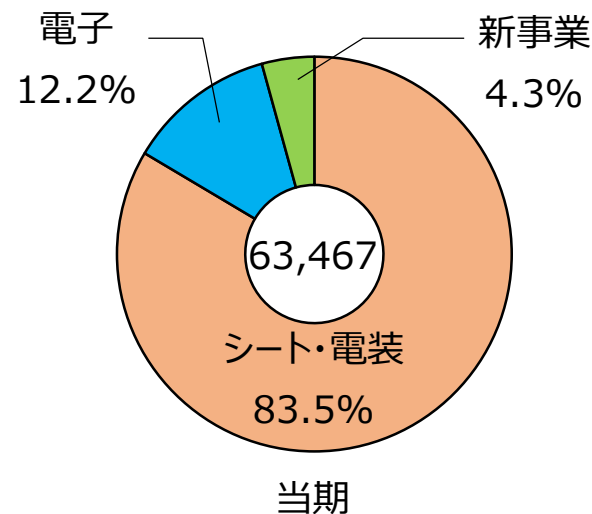
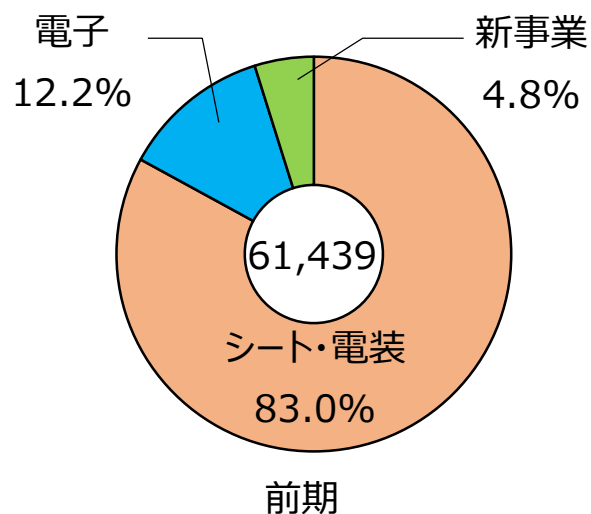
<売上高>

ハーネス事業は、工作機領域では改善しましたが航空機・宇宙関連はコロナ影響により引き続き生産減少となりました

<営業利益>

減収影響により営業損失となりました

事業の種類別 売上高構成



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

設備投資

	前期 (20/12期)	当期 (21/12期)	増減額
国内	1,081	1,396	315
北米	235	466	231
アジア	1,095	654	▲ 441
合計	2,411	2,516	105

- ・国内
電子事業強化のため、広島第2テクニカルセンターを建設しました
岐阜工場に太陽光発電を導入しました
- ・北米
新製品立ち上がりに伴い設備、金型費が増加しました

減価償却費

	前期 (20/12期)	当期 (21/12期)	増減額
国内	1,789	1,440	▲ 349
北米	248	235	▲ 13
アジア	853	819	▲ 34
合計	2,890	2,494	▲ 396

21年3月期の投資抑制により、減価償却費が減少しました

I . 2022年3月期 第3四半期決算概要

II . 事業トピックス

東証新市場区分への対応について

◆当社はプライム市場を選択しました

当社は2021年12月7日の取締役会において、プライム市場を選択することを決議しました。
移行基準日時点（2021年6月30日）においてプライム市場の上場基準を満たしていないことから
新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しています。

●流通株式時価総額向上の基本方針

企業価値の向上	市場認知度・評価の向上
▶ 中長期経営計画2029推進による事業の変革 ▶ 顧客との関係強化、産学連携の強化	▶ ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化 ▶ IR、PR活動の充実

26年3月期末までに上場維持基準を満たすよう各種取組みを進めます

今期の主な取組（改善事例紹介）

Challenge to New Imasen

シート・電装事業

◆コスト競争力強化・収益向上への取組み

シートアジャスタ組立ラインにおいて「からくり技術」を用いたブラケット組立を自動化する内製設備を導入し、省人化を実現。

本改善アイディアは他工場への水平展開し、競争力強化を進めています。

活動の成果はからくり改善工夫展（公益社団法人日本プラントメンテナンス協会）へ出展。

またお客様からも改善取組事例として高い評価をいただくことができました。

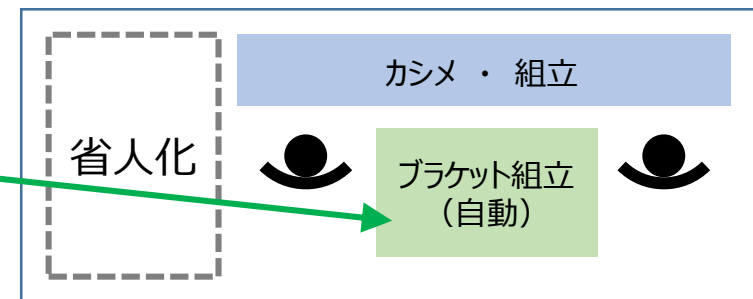
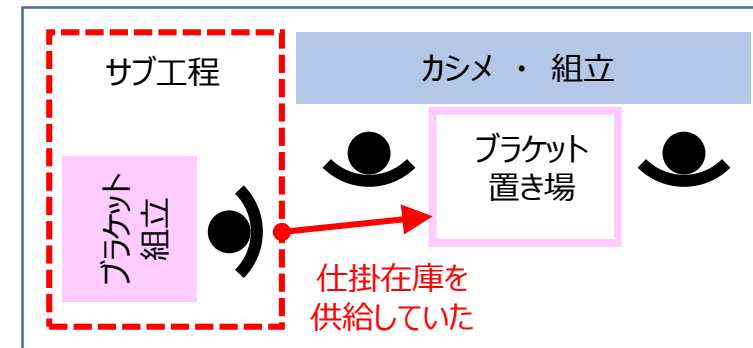


からくり技術を用いた
内製のブラケット自動組立設備

からくり改善によるブラケット組立を自動化

圧入シリンダーの動力1つで4つの動作が可能

・インライン化・工程配分の見直し ▶ 省人化 ▲1名
(サブ工程を本工程に取り入れ)



今期の主な取組（改善事例紹介）

Challenge to New Imasen

電子事業

◆コスト競争力強化・収益向上への取組み

電子ユニット組立ラインの新設にあたり、多品種混合生産ライン（マルチライン）を導入しました。

今後、マルチラインへの集約を進め、省人化とともに高効率な生産体制を構築することで、競争力の強化を図ります。

また、IoTによるモニタリングとトレーサビリティ強化により品質も向上しています。

マルチライン化による効果

- ・ラインの自動化 ▶ 省人化 ▲3名
- ・生産性 ▶ 330% 向上

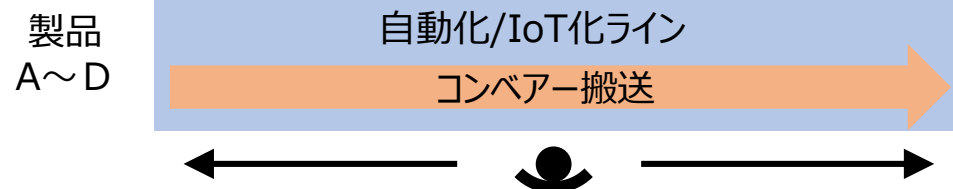


広島工場に新設されたマルチライン

セルライン生産



マルチライン生産



新事業開発

ESG経営の推進

◆新事業を通じた地域社会への貢献 ～QoL（Quality of Life）向上に向けて～



当社は一企業市民として地域社会への貢献を重要な取組と位置付けています。

2021年12月9日、岐阜県養老町が主催する「養老公園観光拠点整備プロジェクト」に参加し、『aLQ』の体験会を実施しました。

養老公園入り口から養老の滝まで、aLQを装着して散歩していただきました。

体験いただいた方からは、「坂道が楽に歩けた」、「息切れせず登れた」など、効果を実感する感想をいただきました。

今後も、観光地での貸し出しなど、aLQの活用を通じて自治体へ協力していきます。



無動力歩行支援機『aLQ』



フックとベルトで
簡単に着脱が可能



バネと振り子の動きで
脚の振り出しをアシストします

※QoL（Quality of Life）・・・「人生の質」「生活の質」の意味

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>